

サクラをめぐる生きものたち

花に集まる

—4月—

花の蜜や花粉を求めて、コゲラ・メジロ・ヒヨドリ・スズメなどの野鳥、ギフチョウやミツバチなどの昆虫が集まります。エサの少ないこの時期にいっせいに咲く花は、野鳥や昆虫にとって貴重なエサとなります。



葉に集まる

—5月~11月—

アメリカシロヒトリやイラガなどのガの幼虫やアオマツムシが葉を食べます。また葉の汁を吸うナシグンバイというウシカの仲間も見られます。葉をエサとする昆虫を狙って、クモや野鳥も集まります。



葉に穴をあけたのは？

カビの一種がおこす「芽孔かっぱん病」によるものです。ガの幼虫が食べた葉は、葉脈までまとめてなくなっています。



かっぱん病によって穴のあいた葉

幹を利用する

—1年中—

幹には地衣類や蘚苔類などの着生生物が生育し、他の生きものが生活できる複雑な環境を作り出しています。



着生と寄生

足羽山のソメイヨシノの中でも老齢な大木の幹には、地衣類・蘚苔類やシダの仲間のノキシノブがよく見られます。これらの生物は、生育場所として幹を利用しているだけで、ソメイヨシノから栄養分を吸収することはありません。このような生活形態を着生と呼びます。一方、キノコやヤドリ菌などは宿主から栄養を吸収して生きており、これは寄生と呼ばれています。

実を食べる

—6月—

ヒヨドリやムクドリ、ハシボソガラス・ハシブトガラスなどがサクラの実を食べに訪れます。カラスはとくにこの実が大好きで、この時期の彼らのフンやベリット*にはたくさんの種子が含まれています。

*「サクラの実を食べたのはだれ？」のパネルで説明しています。



花芽を食べる

—12月~3月—

ウソやヤマガラなどの野鳥が冬場のエサとして利用します。ウソは花が咲く直前までこの花芽を食べ続けます。



「サクラ」には様々な種類がありますが、私たちがお花見を楽しむ代表的なサクラはソメイヨシノという園芸品種です。葉が出る前に、たくさんの花をいっせいに咲かせるのが特徴です。足羽山には3400本あまりのソメイヨシノが植えられており、足羽山の生きものにとって、エサやすみかとなる重要な存在となっています。